

「原敬書簡解読字典」の編集について

玉澤 友 基

1 原敬の書簡の解読について

原敬の書簡の解読に関する現状は、管見の範囲では、文献や展示等において屢々誤読と思われるものが見られる。それらは素人の解読ではないから、解読の難しさを示しているとも思われる。明治大正期の手書き文字は、江戸期の藩の役人が書いた所謂「古文書」と比較し、**個性的**で解読が難しいとの声も聞くが、原敬の書簡もこの例に漏れないようである。

原敬直筆の毛筆の書簡には、罫紙に書かれたものと巻紙に書かれたものがある。罫紙の書簡は、罫線の間にかかれるため、基本的に『原敬日記』と同様のスタイルをとり、毛筆書きの細字で罫線の間にかまれる、比較的变化が少なく読み易い。

これに対して、巻紙の書簡は、罫線の枠がないだけに、縦書きの行末が左傾し、文字の大小・筆圧の強弱抑揚・速度の遅速緩急等の変化に富む。書表現として見た場合の魅力の**■**と言える。相手や揮毫時の条件による書き振りの違いもあるが、草卒にかなりの速度で書かれたものも多い。筆を進めるにつれ、**興**に乗り当意即妙に文字を連ね、筆の勢いで字形も大胆なデフォルメが見られたりする。文章は和漢混交文、候文、漢字・片仮名・平仮名交じりで書かれ、点画の変化や文字の合体、変体仮名や異体字も使用され、**■**中の書道の名跡から採録した現代の書道字典を引いても見出せない文字もあり、現代人にとっては解読を難しくしている。

2 字典の編集について

如上のような解読の状況打開の一助として、原敬の書簡の崩し字の字典作成を思い立った。巷間の書店の店頭には、江戸期を中心とする崩し字関連文献は多数並んでいるが、管見の範囲では明治期以降の類書は無いと思われる。本字典により原敬の書簡の解読の便が**■**られ、原敬に対する**理解**の深化や**研究**の進展に寄与出来れば幸いである。また、原以外の近代の書簡の解読にも寄与できるのではないかと思う。

3 編集の方針と方法

原敬自筆の解読の用に資することを主眼に収集し、文字の書的美には必ずしも拘らなかつた。但し、原敬**独得**の連綿表現については、連綿を断ち切らず、長い慣用表現をそのまま掲載したところがある。字書的に検索するよりも、通読することにより、崩し字や筆記の仕方に慣れて活用出来ればと思う。文字の大きさは、巻紙は凡そ**五〇%**に縮小、罫紙は凡そ原寸とした。五十音順を基本としたが、スペースの都合上前後したところもある。

4 文字資料の出典について

採録した文字資料は、以下に挙げる原敬記念館収蔵の原敬自筆の毛筆書簡によつた。字例毎に手書きで記したアルファベットA～Kは以下の書簡の出典を示す。

A…陸奥廣吉宛（明治38年7月1日）古河鋳業書簡用紙

B…陸奥廣吉宛（明治38年7月22日）古河鋳業書簡用紙

- C.. 陸奥廣吉宛 (明治41年3月21日) 巻紙
- D.. 陸奥廣吉宛 (明治43年2月26日) 巻紙
- E.. 陸奥廣吉宛 (大正2年4月4日) 巻紙
- F.. 陸奥廣吉宛 (大正2年6月22日) 巻紙
- G.. 陸奥廣吉宛 (大正2年12月4日) 巻紙
- H.. 陸奥廣吉宛 (大正2年12月14日) 巻紙
- I.. 陸奥廣吉宛 (大正2年12月17日) 巻紙
- J.. 小松原英太郎宛・写し (明治33年11月20日) 巻紙
- K.. 改野耕三宛 (年代不明6月4日) 巻紙
- L.. 吉田吉二郎宛 (明治24年7月30日) 巻紙

5 参考文献

- 鈴木利貞『原敬全傳』日本評論社出版部、一九二二年
- 田中朝吉『原敬全集』朝風社内原敬全集刊行會、一九二九年
- 『書の日本史 第八卷 明治／大正／昭和』平凡社、一九七五年
- 『書と人物 第四卷 政治家』毎日新聞社、一九七八年
- 原敬文書研究会編、『原敬關係文書』日本放送出版協會、一九八四—一九九年
- 日本歴史学会編、『遺墨選集 人と書』吉川弘文館、一九九七年
- 林英夫『新編・古文書解読字典 (「古文書字叢」縮刷版)』一九九三年

6 おわりに

本字典の趣旨をご理解下さり、資料提供にご協力を頂いた佐藤均原敬記念館前館長、鈴木恒夫現館長はじめ、職員の方々に感謝申し上げます。

恐縮 着 _F	監事長 早中長	閑ヲ得候ハ、	過日 早中長 _F	奉賀候 早中長 _A	乍思 魚 _F	御話置 早中長 _F	承候 早中長 _F
協議 早中長 _I	勘考之上 早中長 _I	兼而 早中長 _I	過日中上置候 早中長 _H	奉賀候 早中長 _F	置候事 早中長 _I	御尋も 早中長 _I	打合セ候 早中長 _H
議會 早中長 _C	黄地二 早中長 _G	臥床ノ由 早中長 _E	會社 早中長 _F	奉賀候 早中長 _G	終り候ハ、 早中長 _F	御合置 早中長 _E	受取 早中長 _B
議會 早中長 _C	機として 早中長 _G	考も有之様ニ付 早中長 _H	改野 早中長 _F	開談 早中長 _G	御取斗 早中長 _B	御差立 早中長 _A	延引 早中長 _E
北濱銀行 早中長 _A	歸京 早中長 _F	考二御坐候ハとも 早中長 _H	會合 早中長 _I	開場 早中長 _C	御出掛相成候 早中長 _A	岡本医師 早中長 _E	追而 早中長 _I
可供貴覽候 早中長 _I	希望 早中長 _B	關係 早中長 _H	會議 早中長 _F	假定 早中長 _G	御申訳旁 早中長 _F	奥羽地方之 早中長 _A	江馬 早中長 _L
近日中二 早中長 _C	旧獵 早中長 _D	彼等ノ 早中長 _H	割據 早中長 _B	改革 早中長 _F	御合 早中長 _F	御願致 早中長 _A	赴キ 早中長 _G
							御合置 早中長 _B
							岡崎氏 早中長 _G
							御願致 早中長 _A
							御願致 早中長 _A

<p>御集會 以集存_D</p>	<p>御來駕 以十_F</p>	<p>御來示 以_F</p>	<p>御來示ヲ參酌致候 以_H</p>	<p>御尤之次第ニ存候二付 以_H</p>			
<p>御壯健 以_A</p>	<p>御壯健 以_F</p>	<p>御壯健 以_G</p>	<p>御無音 以_F</p>	<p>御無音 以_F</p>			
<p>五万圓 以_G</p>	<p>御坐候 以_A</p>	<p>御坐候得共 以_A</p>	<p>御意見 以_G</p>	<p>御異存 以_G</p>			
<p>此間中 以_D</p>	<p>此際 以_G</p>	<p>近藤氏 以_F</p>	<p>近藤氏 以_G</p>	<p>今後 以_F</p>			
<p>事二付 以_F</p>	<p>有之 以_F</p>	<p>有之候ハ 以_G</p>	<p>可有之候 以_I</p>	<p>無之 以_F</p>			
<p>頃まで 以_E</p>	<p>好都合と存候 以_F</p>	<p>好都合と存候 以_F</p>	<p>顧問 以_G</p>	<p>鐵業會社 以_I</p>			
<p>計畫二 以_G</p>	<p>經濟 以_B</p>	<p>今朝 以_F</p>	<p>結果 以_F</p>	<p>經過 以_F</p>			
<p>被下候趣 以_F</p>	<p>草倉銅山 以_A</p>	<p>京阪地方 以_E</p>	<p>決定之積ニ御坐候 以_H</p>	<p>決定可仕候へとも 以_G</p>			
<p>御集會 御來駕 御來示 御來示ヲ參酌致候 御尤之次第ニ存候二付</p>	<p>御壯健 御壯健 御壯健 御無音 御無音 御承知被下候事</p>	<p>五万圓 御坐候 御坐候得共 御意見 御異存 御上京 御報知</p>	<p>此間中 此際 近藤氏 近藤氏 今後 懇談仕候處 困却致</p>	<p>事二付 有之 有之候ハ 可有之候 無之 無之候所 是レハ 是も 是迄 此段</p>	<p>頃まで 好都合と存候 好都合と存候 顧問 鐵業會社 交渉</p>	<p>計畫二 經濟 今朝 結果 經過 決算 執行之積ニ御坐候 決意致シ</p>	<p>被下候趣 草倉銅山 京阪地方 決定之積ニ御坐候 決定可仕候へとも</p>

積二御坐候二付 格三三H	直接 玉接 F	直二 多忙之爲メ 多忙一ウ 多少之修正ヲ加候 多少仙云云 電報 遲延 地方官 F 注意方 積二御坐候 格三三H	大要 大体ニ於テ 滞留中 退任之事ニ 台湾 絶て 爲メニ	其上ニテ 其内 其後 其寫ハ 其他ニ付テハ 其節 其方ニ 其邊ハ 其邊	候二付 候通 候ハハ 候得共 候様 添而申上候 存候 奉存候 奉存候 相違	贈与金 夫レハ 夫々處置致度 相談 相談役 候趣ニ有之候處小生モ	條ハ 整頓 世間ニテ 接到 細翰 政友会 千萬ニ存候 先達
手當 格三三A	一寸 築地 都合二 仕處 仕候處 仕度考之處						
手續致候 格三三A	出掛ケ 格三三F						
出掛ケ 格三三A	出掛ケ候 格三三A						
出来候事 格三三F	出来候事 格三三F						
出来サル 格三三B	出来サル 格三三B						

可然候 L	職務 職務	親敷 親敷	諸氏 諸氏	算出 算出	御坐候得共 御坐候得共	御内話致候如ク 御内話致候如ク
準備中ニ御坐候 準備中ニ御坐候	處置 處置	實務二 實務二	諸事 諸事	残念 残念	後任之義ニ付 後任之義ニ付	御安心被成度 御安心被成度
小生より 小生より	處分 處分	氏二も 氏二も	諸事 諸事	自然 自然	頃二は 頃二は	御腹藏ナク 御腹藏ナク
執務 執務	新旧 新旧	執務 執務	出席之事二 出席之事二	自身 自身	口陳 口陳	御相談致スノ外無之 御相談致スノ外無之
侍史 侍史	時節柄 時節柄	時節柄 時節柄	出席 出席	至極之 至極之	差出候筈 差出候筈	御坐候哉 御坐候哉
新理事も 新理事も	診断之後二 診断之後二	将来 将来	出發 出發	次第も有之 次第も有之	乍去 乍去	
寸暇無之 寸暇無之			資金 資金	次第第二御坐候 次第第二御坐候	參酌 參酌	
				辭退 辭退	參上 參上	
					扱 扱	

<p>押啓 東</p>	<p>押啓過日 奉告</p>	<p>押啓 申啓</p>	<p>押啓二讓候 申啓</p>	<p>押啓 申啓</p>	<p>押啓まで申し述べ候 申啓</p>
<p>押啓券 申啓</p>	<p>押頭 支取</p>	<p>押紙仕候 申啓</p>	<p>押承仕候 申啓</p>	<p>場合 申啓</p>	<p>甚 申啓</p>
<p>賣買談ハ 申啓</p>	<p>博士 申啓</p>	<p>萬事 申啓</p>	<p>萬事 申啓</p>	<p>繁忙等之爲メ 申啓</p>	<p>判明 申啓</p>
<p>引受 申啓</p>	<p>非常 申啓</p>	<p>非常之 申啓</p>	<p>病人のみニテ 申啓</p>	<p>病氣 申啓</p>	<p>披露 申啓</p>
<p>古河家 申啓</p>	<p>古河藏業會社 申啓</p>	<p>不如意ニ有之 申啓</p>	<p>返濟之事ハ 申啓</p>	<p>編輯 申啓</p>	
<p>古河邸にて 申啓</p>	<p>含置候様 申啓</p>	<p>藤田傳三郎 申啓</p>	<p>不在ニテ 申啓</p>	<p>閉會後ニ 申啓</p>	<p>別途 申啓</p>
<p>本人 申啓</p>	<p>芳書 申啓</p>	<p>芳書 申啓</p>	<p>参り 申啓</p>	<p>右様 申啓</p>	<p>右之次第 申啓</p>
<p>陸奥老聞 申啓</p>	<p>陸奥老臺 申啓</p>	<p>名義ニ致候得共 申啓</p>	<p>右様御含置 申啓</p>		

<p>右申上候次第 申上候次第</p>	<p>申述置候 申述置候</p>	<p>可申候 可申候</p>	<p>申上候事下存候 可申上候へ共</p>	<p>宜敷御坐候 豫定通</p>	<p>落膽 来訪</p>	<p>両氏二 聯落</p>	<p>勿々頓首 勿々頓首</p>
<p>申問敷哉 勿論</p>	<p>申居候又 申居候二付</p>	<p>可申候間 可申下存間</p>	<p>山脇氏之事ハ 不得已</p>	<p>豫算 横濱電線</p>	<p>理事長 療養致候ハ</p>	<p>留洩不致 老臺</p>	<p>勿々頓首 勿々頓首</p>
<p>申進候 申述候</p>	<p>申度上存候 申渡</p>	<p>可申と存候 可申と存二付</p>	<p>様子等 宜敷</p>	<p>據二モ有之 要旨のみ</p>	<p>了承致候 流行感冒炎</p>	<p>了承致候 了承致候</p>	<p>勿々頓首 頓首</p>
<p>申上候通</p>	<p>可申</p>	<p>可申と存二付</p>	<p>宜敷</p>	<p>要旨のみ</p>	<p>了承致候</p>	<p>了承致候</p>	<p>頓首 頓首</p>